

釧路支部 管内高等学校教育相談研究会の活動状況

- 1 事務局校 北海道釧路北陽高等学校
- 2 研究大会名 令和6年度 第44回 釧路管内高等学校教育研究会 教育相談部会
総会・研究協議会
- 3 実施日時 令和6年11月13日(水)
- 4 実施会場 北海道釧路北陽高等学校 会議室 9:40~15:10
- 5 参加人数 36名

6 実施内容

(1) 講演

「自殺予防実践研修（SOSの出され方研修）
～死にたい気持ちを抱える子ども・若者のリアル～」

講師：一般社団法人北海道セーフティネット協議会 事務局長 高橋 信也 氏

(概要)

講師の豊富な実践や長きにわたる相談業務から、「こども・若者の自殺の現状」「こどもの相談を受けるということ」「事例の共有」「グループワーク」「SOSへの対応」「相談窓口の紹介」に分けて講演をしていただいた。講師の経験に裏打ちされた内容で子どもたちの不安の裏に隠れていること、トラウマとの関係性などや相談を受ける受け方一つでその後のつながりに影響することなど印象深い内容であった。受講者からは知らない相談先などが紹介されて、学校で共有したい。改めて生徒との関わり方を見詰め直そうと思った。平素の生徒からの相談を大切にして、感度を磨く必要性を感じたなどの感想が寄せられた。

(2) 実践発表・事例研究

ア「教育相談と生徒指導の一元化について」

北海道阿寒高等学校 教諭 葛西 彩 氏

(概要)

小規模校で、大都市部から多くの生徒が通っている現状から、教育相談が学校の根幹を担っている。全教職員で先生との面談など様々な取り組みと、複数の支援Coがいることできめ細やかな対応ができている事例について紹介していただいた。

イ「教育相談の充実について」

北海道釧路北陽高等学校 教諭 東 陽 養護教諭 下元 亜美

(概要)

教育相談活動の校内体制についての概略、校内委員会の活動内容、保健室との連携について話をした。教育相談を学校全体で取り組むために一例として、平素の保健室運営に教育相談担当者が深く関与することで養護教諭の業務軽減に繋がる事例を紹介した。

※ 発表後、質疑応答を行い、内容を深めた。

(3) その他

・総会終了後時間を取ってアイスブレイク的な内容で参加者に自己紹介を実施し、教育相談担当者の横のつながりを深める一助とした。

・事前に「各校での取組」「アドバイスしてほしいこと」のアンケートを配付し、集約したものを総会1週間前に各校に配付し総会に参加すること、この内容を元に研究協議を行い、結果を事後に各校に送付した。

・終了後のアンケート等をGoogleformでも回答できるように業務の軽減に努めた。

7 その他、特に取り組んでいることなど

・総会・研究協議会後すぐに、アンケートを集約・共有し、今後の資料にしている。

8 次年度の支部事務局校

北海道釧路北陽高等学校 担当者：東 陽 連絡先：t000405@k-hokuyo.ed.jp